

主要事業評価シート(第1次実施計画／H29・30・R1年度)

① 基本事項	計画コード	事業名			部名	教育委員会事務局	
	17077	学力向上推進事業			課名	学校教育課 教育支援G	
	施策の大綱 基本施策 施策の方向 戦略プロジェクト	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実			財務科目	会計	01:一般会計
		01:子どもたちの豊かな学びと成長				款	10:教育費
		03:子どもたちの育ちのための学びの展開				項	08:教育研究費
		05:「そして、親となるまち」プロジェクト				目	01:教育研究費
	事業予定期間		H 27 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等			

② 目的・概要	対象	市内小中学校の児童生徒及び教職員
	目的	児童生徒一人ひとりの「確かな学力」の向上を図るため、「亀山市学校教育ビジョン」「亀山市学力向上推進計画」に基づいた取組を推進する。
概要	概要	児童生徒の学力の状況や課題を把握し、各種施策により、その向上を図る。研修会を開催することや、先進地視察等により授業改善に努めるとともに、学習環境を充実させるなどして、総合的に学力向上への取組を進める。

平成29年度			平成30年度		令和元年度	
年度計画	○レディネステスト(学力テスト)実施と分析 ・小学校3～6年生(2教科) ・中学校1～2年生(5教科) ○補充学習支援教材の活用 ○中学校への運動部支援員の派遣 ○教職員への各種研修会の開催 ○先進地視察による情報収集 ○かめやまっ子チャレンジの実施		○補充学習支援教材の活用 ○中学校への運動部支援員の派遣 ○教職員への各種研修会の開催 ○先進地視察による情報収集 ○「主体的・対話的で深い学び」の推進事業 ○教育課程指定校事業 ○三重の英語教育改革加速事業		○補充学習支援教材の活用 ○中学校への運動部支援員の派遣 ○教職員への各種研修会の開催 ○先進地視察による情報収集 ○かめやまっ子チャレンジの実施	
	○レディネステスト(学力テスト)実施と分析 ・小学校3～6年生(2教科) ・中学校1～2年生(5教科) ○補充学習支援教材(問題データベース)への各校ログイン回数のべ5,887回 ○運動部支援員派遣のべ320回 ○教職員各種研修会4回開催 ○先進地視察による情報収集6か所 ○かめやまっ子チャレンジの実施		○補充学習支援教材(問題データベース)への各校ログイン回数のべ5,295回 ○運動部支援員派遣のべ283回 ○教職員各種研修会4回開催 ○先進地視察による情報収集6か所 ○かめやまっ子チャレンジの実施 ○教育課程指定校事業における授業公開研究会の実施1回 ○三重の英語教育改革加速事業における授業公開の実施3回			
	事業の計画・実績	計画額	事業費	6,800千円	5,000千円	3,800千円
			国庫支出金		300千円	
			県支出金		900千円	
地方債						
その他						
一般財源			6,800千円	3,800千円	3,800千円	
事業費	予算額	事業費	6,728千円	4,768千円		
		国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他	278千円			
		一般財源	6,450千円	4,768千円	0千円	
決算額	決算額	事業費 ①	6,728千円	4,392千円		
		国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他	278千円			
		一般財源	6,450千円	4,392千円	0千円	
人件費	人件費	総人件費 ②	154千円	778千円		
		一般職員	154千円	778千円		
		所要人員	0.02	0.10		
		臨時職員等	0千円	0千円		
総コスト(①+②)		6,882千円	5,170千円			
受益者負担率		0.0%	0.0%			

				平成29年度	平成30年度	令和元年度	
④ 指標	①	名称	全国学力学習状況調査の結果	計画値	94	96	100
			三重県平均正答率を100とした時の割合(各教科全体の平均)	実績値	91	94	
				単位	%	%	%
	②	名称	授業理解度	計画値	小88中83	小89中84	小90中85
			学校での授業を理解している子どもの割合(学校評価アンケート)	実績値	小88.7中80.3	小88.6中81.0	
				単位	%	%	%
	③	名称	家庭学習の状況	計画値	小55中45	小58中48	小60中50
			家で自分で計画を立てて勉強していると答えた児童生徒の割合	実績値	小62.5中66.8	小69.8中65.2	
				単位	校	校	校

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 正答率等、目に見える学力向上においては依然課題が見られる学校があるため、めあてとふりかえりの質的向上や授業構成の仕方等、授業改善の継続が必要である。また、個々の児童生徒のつまずきを把握し、学力の実態に応じた指導が今後も必要である。学習指導要領改訂に伴い、教職員の英語指導力の向上と児童生徒の英語力の向上が必要である。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 「書く力」の育成を軸とする学力向上の取組にかかる教員アンケートを実施し、「ふりかえり」の実施状況、「三重の学-Vivaセット」の活用状況を把握し、実施や活用について指導を行った。また、学力向上研修会を開催し、基礎的基本的な学習内容の定着に向け、個々の児童生徒の学力の実態に応じた指導の在り方を支援した。 国や県の学力向上や英語教育推進に係る事業等を活用し、各校の研修や実践を支援した。

評価		(判定)
⑥事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 補充学習支援教材(問題データベース)への各校ログイン回数はのべ5,295回、4人の運動部活動支援員を市内の中学校に年間283回派遣出来た。「書く力」の育成を軸とする学力向上の取組にかかる教員アンケートを3回実施し、結果を校長会で学校名を入れて公表し取り組みを促した。また、ふりかえりの実施状況、「三重の学-Vivaセット」の活用状況の取り組みが進んでいる学校の取り組み方法等を紹介した。学力向上に関する研修会を3回、英語についても研修会を2回実施したほか、三重県教育委員会の事業、「英語教育推進加速化事業」の指定をうけ、英語の公開授業を3つの小学校で実施した。 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 全国学力学習状況調査の結果は、昨年度よりは向上したが(91%から94%)計画値(96%)を下回った。授業理解度は、小学校では88.6%中学校では81.0%で、中学校で1ポイントの上昇が見られたが、小中学校とも計画値に達することができなかった。 家で計画を立てて学習を進めている児童生徒の割合数は、計画値を上回ったが、中学校では昨年度より値が下回っている。 まずまず成果を得た

課題	【課題は何か】 全国学力学習状況調査、みえスタディチェックにおいて、基礎・基本の定着、「書くこと」について課題のみられる学校がある。 ふりかえりの実施状況や質的向上は、年間を通じて改善はみられるが、全体的には学校間に取り組みに差がある。 学習指導要領の改訂に伴い、教職員の英語指導力向上と小中の連携による指導が望まれる。	今後の方向性	☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 【その他の場合、その内容を記載】	
	⑦ 今後の対応方針 対応			【課題に対し、どのように対応するか】 基礎・基本の定着、「書くこと」の指導については、校内で組織的に取り組むようにすすめていく。また、すでに取り組みをすすめている学校の手法を市内で紹介する。 引き続き学力向上推進計画に沿った「ふりかえり」の取り組みを各校ですすめていく。指導主事の要請訪問等で指導を徹底していく。 英語担教育当者会、英語教育研修会での取り組みを教職員の指導の向上につながるよう充実させ、英語チャレンジ等の結果を指導につなげていく。
	効果			【対応することで、どのような効果が期待できるか】 児童生徒の一人ひとりの「確かな学力」の向上が期待できる。
対応時期		令和元年度		

【1次評価者】	教育委員会事務局 学校教育課 教育支援グループリーダー 平野 朋希
【最終評価者】	教育委員会事務局 学校教育課長 西口 昌毅

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A			
	成果	B	B			